

国際言語文化研究所

International Institute of Language and Culture Studies



新しい時代にふさわしい共同性を思考するという命題を、言語と文化という側面から追及していくことを目的とする

国民国家の再検討、グローバリゼーション批判、ジェンダー編成の考察、ディアスポラとしての移民の追跡、日本研究における視覚性の問題、ヴァナキュラー文化、風景・空間の表象、更に、基礎言語学からバイリンガリズムや言語脳イメージング研究まで、多くの課題をプロジェクト研究として取り上げ、シンポジウム、出版物などで国際的に展開・発信しています。



研究所としての活動

本研究所の活動は、学内外の研究者により組織された共同研究と、公開講演会やシンポジウム、「研究所連続講座」など、学生や一般市民に広く開かれた活動に大別されます。共同研究は、広い学問領域をふまえて行われる学際的総合的なプロジェクト研究や、世界の文学・芸術・文化・思想などの幅広い分野について研究する課題別共同研究会により進められています。また、研究成果は年間3号刊行する紀要『立命館言語文化研究』や単行本などに発表しています。



紀要『立命館言語文化研究』

連続講座・シンポジウム・研究会テーマ例

リレー講座(全4幕)

- メディアとしての風景と地域の記憶
- 書いて配って世界を変える—zine・ミニコミ・フェミニズム
- ヴァナキュラーな言語と文化—中世イギリス、江戸時代の越後、植民地時代のキューバを例に—
- 戦後東アジアをめぐる移動の生活史

連続講座(全4幕)

- 戦争が残した傷・病
- カナダの日本人移民社会における「病」—スペイン風邪・結核との闘い
- 災厄を伝える民うた・民がたり—震災・戦争・パンデミック—
- 原発禍からコロナ禍へ—連鎖するカタストロフィを考える

シンポジウム

- 地域に生きた女性たちの「フェミニズム」—「全国女性史研究交流のつどい」報告集全12回を読む—
- 文学的クリエーションの場としての大学 University as a Site of Literary Creativity : a roundtable
- ガリツィア・ユダヤ博物館巡回展「記憶の跡をたどって」
- ヴァナキュラー文化と世界の子どもたち
- 世界の“English”から“Englishes”の世界へ「国際英語文化の多様性に関する学際研究」
- 韓国におけるトランスジェンダーの現状：法制度と市民社会
- トランスナショナルな運動としてのトランスフォビア
- スポーツとトランスジェンダー

研究会

- 「I Am Here—私たちはともに生きている—」上映とトーク
- 左川ちか2022—新たに開かれる詩／モダニズム／世界
- 日本語から世界文学を考える Considering WORLD LITERATURE from Japanese Language

主な研究テーマ

歴史、移動、物語の包括的研究プロジェクト

- 日系人の衣食住
- 世界／日本文学のモダニティ
- ヴァナキュラー文化の循環と変容

認知と表現を巡る包括的研究プロジェクト

- ことばの科学
- ジェンダー研究
- 風景・空間の表象と記憶や歴史のつながりの研究
- ポスト国民文学の時代の文学生産研究



研究所長：河原 典史(文学部 教授)
主な研究拠点：衣笠キャンパス
お問い合わせ：立命館大学 研究部 衣笠リサーチオフィス内 国際言語文化研究所事務局
TEL: 075-465-8164 FAX: 075-465-8245 ㊚: genbun@st.ritsumeikan.ac.jp <http://www.ritsumeikan.ac.jp/research/iilcs/>